



## 「降水確率 予報について」

天気予報で、“明日の降水確率は30%”というように、「降水確率」という言葉が出てきます。どうして「降水確率予報」が必要なのでしょう？

大気中で雨や雪が降るためには、いろいろな条件がそろわなければなりません。普通は、低気圧が近づいてくると雨が降ります。しかし、低気圧がやってきても雨が降らないこともあります。それは、雨が降るための何かの条件がそろっていないからです。

ところが私たちは、そのような全ての条件を完璧に観測したり、予測したりすることはできません。そこで、予想された大気の状態を過去の資料とつぎ合わせて、雨の降る可能性を定量的に表現しているのが「降水確率」です。

「降水確率予報」では、1ミリ以上の雨が降ったときに“降水あり”と判断します。地面が湿る程度の雨が降っても、それが1ミリに達していなければ、降水があったとは判断しません。また、降水確率の数値は、あくまでも雨の降る

可能性の大きさを表しているだけで、雨の量とは関係ありません。降水確率が90%と云えばかなり高い確率ですが、大雨を予想しているとは限りません。一方、降水確率が10%という小さな値でも、大雨が降ることもあり得るということです。

それでは、降水確率が何%になると、傘を用意しなければならないのでしょうか？

この答えは簡単ではありません。というのは、雨が降ったときにどのような影響を受けるかは、人それぞれ違うからです。例えば、晴れ着を着て外出する人や、一度でも雨に濡れると台無しになるというような仕事をしている人にとっては、降水確率がわずか10%でも、傘を用意するなどの雨が降った場合の備えをしておく必要があるでしょう。一方、少しくらい雨に濡れても大した影響がないという人にとっては、70%や80%などの高い降水確率のときだけ雨への準備をするとよいのかもしれない。

降水確率予報というのは、予報の利用者が有効に活用するための情報のひとつなのです。

【龍ヶ崎市気象防災アドバイザー・酒井重典】

## 道の駅の開業時期を延期します

■問い合わせ：道の駅・牛久沼プロジェクト課 ☎内線 392

市では、平成31年茨城国体前を開業目標に道の駅整備を進めていますが、並行して策定を進めている牛久沼の活用構想との統一感や相乗効果を図るため、開業目標を1年程度延期することとしました。

今後とも、市民をはじめとする多くの皆さんに親しまれる道の駅となるよう、整備に取り組んでいきます。ご理解、ご協力をお願いします。

### 今後のスケジュール

平成29年度	30年度	31年度	32年度
<p>牛久沼活用構想</p> <p>活用コンセプトの反映</p> <p>護岸改修設計</p> <p>準備工事</p> <p>運営（予定）会社の選定</p>	<p>道の駅基本・実施設計</p> <p>改修工事</p> <p>運営会社の決定・施設レイアウト協議・管理運営体制の構築など</p> <p>農産物・特産品の提供体制の構築など</p>	<p>建設工事</p>	<p>道の駅開業</p>